

1 次の新聞を読んで、あとの問いに答えなさい。

全国新聞

2009年(平成21年)6月20日(土曜日) (日刊)
6月20日 土曜日
政治 4面
国際 7面
経済 9・11面
スポーツ 16・17面
文化 20面
地域 26・27面

今も色あせない魅力

太宰治生誕100年

「走れメロス」「人間失格」などの作品を残した作家・太宰治(1909～48)が、昨日19日で生誕100年を迎えた。各地で様々な催しが行われる中、太宰ゆかりの地、東京都三鷹市には、全国から多くのファンが訪れ、何年たっても色あせることのない太宰の魅力が改めて浮き彫りにした形となった。〔関連記事20面〕

太宰が亡くなって、彼の39歳の誕生日でものが発見された48年(昭和23)年6月19日は、忌と呼ばれている。命



「太宰治文学サロン」を訪れ、説明を聞く来館者

名したのは太宰と同郷で青森県出身の直木賞作家・今官一。太宰の作品「桜桃」にちなんで付けたと言われ、今年で61回目を迎えた。太宰にゆかりのある各地には、今年も多くのファンが集まった。友人と一緒に太宰の墓のある禅林寺(三鷹市下連雀)を訪れた千葉県の会社員(33)は「中学生のときに『走れメロス』を読んで以来、太宰ファン。弱さを隠さない純粋さが最大の魅力。今もお新しい発見がある」と語った。

コラム

最近、文学作品を身近に感じさせる動きが盛んだ。文庫本のカバー一つとってみても、人気漫画家によるイラストや、芸能人の写真がデザインされているものがあり、文学ファンでなくても思わず手に取りたくなってしまふ。横書きで書かれた小説や電子書籍の売れ行きも好調であると聞く。今に始まったことではないが、いわゆる名作を漫画化したものが売れている現実も見逃せない。こうした動きは、特に若い世代に向けて、文学作品との新しいいかかり方を提案していると言つてよいだろう。作者や内容にひかれるもよし、本のカバーにひかれるもよし、出会い方は自由であつてよい。本の魅力を知る機会を得ることが大切なのだ。▼文学作品との出会い方や味わい方が多様化しても、本に描かれた世界を通して自分なりに価値を発見したり、新たな自分を創造したりしていくことに変わりはない。▼来年は国民読書年。本を手取る若い世代を大いに歓迎したい。

シリーズ 広がる「食育」

最終回

「弁当の日」という取り組みが全国の学校に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通

食育の思い

して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事をすることができるといふ気持ちが自立につながると思われている。全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承

「太宰治文学サロン」が開設された年月

平成(ア)年(イ)月

答え(ア)

答え(イ)

一 「太宰治文学サロン」が開設されたのはいつですか。次の(ア)と(イ)に当てはまる数字をそれぞれ書きなさい。

二 この紙面のトップ記事「今も色あせない魅力 太宰治生誕100年」と「コラム」との書き方の違いを説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 トップ記事は結果を示してからその背景や原因を書いているが、コラムは時間の経過に沿って順番に書いている。
- 2 トップ記事は事実を中心に客観的に書いているが、コラムは事実だけでなく書き手の意見や感想も交えて書いている。
- 3 トップ記事は最新の出来事取材した上で書いているが、コラムは過去の情景を的確に描写しながら書いている。
- 4 トップ記事は様々な事柄を示してから結論を書いているが、コラムは結論を述べてからその根拠となる事柄を書いている。

答え

